

# 共助

新野さん（写真右）  
松浦さん（写真左）



厚木駅近くのさつき町自治会では、防災に関する地域の取り組みとして、特色のある活動をしています。今回は、共助の取り組みについて、新野さつき町自治会長と、松浦さつき町自主防災委員長にお聞きしました。

■東日本大震災以降、防災に関する地域の取り組みで変わったと感じる点は？

「3・11が起こる前までは、防災訓練や自主防災の体制作りも形式的なところがありました。しかし、震災後は現実を見ないといけないという気持ちから、実践的なものに重点を置いて訓練などに取り組みようになりました。具体的には搬送訓練などですが、意識の面で随分変わったなあ、と感じていますよ。本当の自主防災、機能する組織に変えるということに目覚めましたね」

「市で整備している要援護者名簿もありますが、自治会独自の基準で別の援護者名簿を作りました。これは、災害時に助けて欲しいと手を上げた人だけの名簿で、この人たちを基準に救助を行うことにしています。現在、記載されているのは40人程度で、本部役員がみな同じ名簿を持っています。もちろん、扱いについては同意を頂いています」

地域の訓練も進めていかないといけないな、という思いが強くなりました」

「地域の力、共助というのは外せないもの。自助努力をした上で、公的機関の支援を待たないと。自分たちは何もしないで行政に任せきりというのは駄目だと思えます。さつき町自治会で自主防災が機能的に運営できているのは、団地の特性で住民もまとまりやすいという部分もあるかもしれませんね」

## ■自主防災委員会について

「現在、委員会の役員は21人います。この21人は原則として固定メンバーで、いわば、さつき町の防災リーダー的な役割です。基幹になる人間を変えないことで、継続的な取り組みができていくと思っているんです。その代わり、役員以外の委員は毎年変えて、防災意識を広げていく形で進めています。管理事務所にはAEDも設置してあり、消防の方に来てもらって講習を行ったりもしています。消防署に行くのではなく、実

## ■高層階に居住している方への対応は？

「以前は毛布を担架にして運ぶ訓練もやっていましたが、人って意外と重いんですよ。ここは、5階建てと7階建ての棟があるんですが、5階建てにはもともとエレベーターがありません。6人くらいで5階から下まで、1度下ろすだけで、みんなヘトヘトになってしまつてね。何人も救助するのはとても無理だと。あまり力を使わなくても救出できる方法がないかなというところで、導入したのが、このイーバックチェア。現在、2



イーバックチェア  
階段避難器具。身体の不自由な方や歩行が困難な方を、階段を使って安全に屋外に避難させることができる。平面では車いすと同じように搬送可能。



基所有していて、これからも増やしていこうと思ってるんですよ」  
「これを使えば、最低1人でも救出ができるんですが、安全を考えると、2人いると安心ですね。ただし、すぐに誰でも簡単にという訳にはいかないもので、必ず訓練をしてから使ってもらうことにしています。今後は、搬出訓練にも取り入れていくつもりです」

てほしいなと思つていきますので、そういった仕組みを考えていきたいですね」

## ■地域について

「自治会の加入率低下が問題になっていますが、さつき町の自治会加入率は100割です。戸建ての多い地域やマンション群など、自治会の特性というのはそれぞれ違います。行政には、そういった自治会の特性をつかんだ配慮をお願いできればと思つています。普段からの交流がないと、いざという時に助け合えないじゃないですか。向こう三軒両隣の精神を持って、地域との関わりを持っていきたいです」

「イーバックチェアのほか、簡易トイレも逐年整備しています。自分たちで整備する地域の防災備蓄品は、あまり高額すぎても理解が得られないと思いますが、できる限り、自分たちのことは自分たちでやっていこうと考えています。すべての原点は人だと思つので、地域の交流はできる限り進めていきたいですね」



さつき町の備蓄倉庫と備品

## ■地域の防災対策について思うところは？

「以前、阪神淡路大震災の教訓や神戸消防の方の話をテレビで見たんですが、その中で消防の方が、いざという時には自分たちは消火活動に重点をおいて行動するようになる、消火と救助を一度に全てカバーすることは物理的にできない、だから、救助の部分は地域の方である程度まではお願したいという主旨の話をされていたんです。まったくそのとおりだと思います。海老名でも災害が発生したら、消防は消火活動が中心になると思うので、救出の部分は住民同士が助け合う。そういう主旨で



管理事務所にはAEDが

際に使う環境で訓練をすることに意味があると思つているので、地域の訓練に協力してくれる消防の皆さんには感謝していますよ」

「市の防災講演会に参加した時に、講師の方から女性の防災リーダーを育てましょうという話がありました。授乳中の方に配慮をすとか、女性用トイレの数を増やすとか、男性目線では配慮に欠けてしまう部分がありますからね。子どもたちの力も使っていきたいよという話も、自分も日頃から思つていたことでした。この団地も、高齢化が進んでいます。老人が老人を助けるのももちろんあるけれど、中学生くらいだったら、大人と一緒に助けることもできるなど。これからは、さつき町でも女性の防災委員長が育つてほしいし、中学生にも訓練に参加し